

総合的な学習の時間 学習活動案

学習を通して培う国際理解的力
①平和を愛する心
③自国認識と国民的自覚
⑥連帯意識・協調・参画意識

学校名 釧路市立 鳥取小学校

児童 第6学年 男子16名 女子13名

授業者 教諭 中原 英雄

1. 単元名 「オリンピックから世界を見つめよう」

2. 単元の目標

- ・日本選手の活躍やオリンピックについて、子ども自らが意欲をもち、課題を追究していくことにより、自ら学ぶ力を高める。 【関心・意欲・態度】
- ・いろいろな国の立場になってオリンピックを見ることにより、日本との違いを知り、世界の国々が協調していく必要性に気づく。 【思考・判断】
- ・自分が調べたことを、相手にわかりやすく伝えることができる。 【表現・処理】
- ・オリンピックの歴史や意義を追究することによって、平和の祭典と世界の情勢について理解し、平和を愛する心を培う。 【知識・理解】

3. 単元について

(1) 児童の実態

運動系少年団に所属している子が半数以上おり、体育も意欲的である。スポーツニュースなどもよく見ていて、スポーツ系の大会にも関心が高い。

しかし、7月中旬にオリンピックについて知っていることを調査すると以下のような結果が出た。

・開催国、開催地がギリシャ、アテネと知っている割合	50%
・今回、参加すると思われる国数の平均	30カ国
・今回、実施されと思われる種目数の平均	35種目
・過去の日本のメダリストで知っている人	
高橋尚子 18人 谷亮子 16人 井上康生 3人 清水宏保 1人 バレーボール 2人	

このようにオリンピックについての知識は7月の段階では少ない。まったく関心のない子ども数名いる。また、メダルを取った人の答えも「やわらちゃん」「Qちゃん」という愛称がほとんどで、正しく答える子は少数であった。

しかし、1学期にこれらのクイズを行ったので興味がわき、オリンピックを楽しみにしていたようである。また、開催してからは、日本選手の活躍もあり、関心がぐんと高まったように思われる。

今までの総合的な学習において、自分達の力で追究し、まとめ、発表する形をとってきた。電話取材やインタビューによる情報収集を経験している子もいる。また、オーディション形式で発表したの、パワーポイントを使っての発表をしたり、実物を作成したりしてみんなに訴えるなど工夫のある発表を経験している。

(2) 教材の価値(視点1に関して)

この単元は今年行われるアテネオリンピックを学習の中心に据え、オリンピックの意義や歴史を追究していく中で平和や連帯意識、自国意識などを高めていける教材と考える。子供にとっても身近であり、興味・関心が高まりやすく、国際理解のきっかけになりやすい。

今回は第28回大会になる。ここにくるまで、世界大戦による中止が3度もある。モスクワオリンピックの西側諸国の不参加、ロスオリンピックの東側諸国の不参加などからもオリンピックが「平和の祭典」であることとその時の国際関係がわかる。

また、先進国と発展途上国の違いがメダル獲得数や参加人数・参加種目数に顕著に現われているので、国際的な問題や世界各国の違いがわかりやすい。

第1回からの参加国数を調べると、欧米中心から全大陸、全世界へと広がっていくのがわかる。五輪のマークの意図、『参加することに意義がある』という言葉などから、世界中の国が協調し、連帯意識をもって参加する素晴らしさを感じ取れる。

また、過去のオリンピックを含めて地元の選手がオリンピックに参加していることを知ることにより、地元意識や自国認識を高めることができる。さらに、自分のやっているスポーツ、自分の住んでいる地域と世界のつながりを感じることができる。

(3) 指導にあたって(視点2に関して)

<第一次「オリンピック博士になろう」>

まず、各種目の記録を体感させ、世界記録のすごさを実感させたり、オリンピックのクイズを出したりして意識を高める。クイズの内容は歴史や出場国数、種目数、メダル獲得数、歴史、意義、今まで実施されたおもしろい種目、釧路出身のオリンピック選手などである。

さらに、日本の出場種目や応援したい種目、注目している選手、予想メダル獲得数などを記述させオリンピックに対する関心を高める。

次に「オリンピック博士になるぞ!」というテーマでそれぞれの興味・関心にしがたって追究を始める準備をする。オリンピックの見方が変わる重要な場面であるので、どのようなことについて、何を使って調べていくのか計画を立てる。

その後、類似する課題の子同士が協力し合って情報を集め、主体的に学習に取り組む。

こうして追究してきたことを発表し、それぞれの内容について理解を深める。

<第二次「釧路で冬季オリンピックを開くとしたら」>

これまで客観的に見てきたオリンピックを身近に感じさせたい。

まず、地元の銀メダリスト北澤欣浩氏からさまざまな話をお聞きする。そこでいろいろな角度からオリンピックを見る必要性を知る。

そして、釧路で冬季オリンピックを開くとしたら、どんなよさがあり、何が課題で、どんなことをアピールできるのか話し合う。

また、自分たちが小さな国や大きな国、資本のある国、貧しい国、開催都市の役員などの立場になり、オリンピックのあり方についての考えをまとめたり、『参加することに意義がある』という言葉の意味や背景を追究したりする。そして、それぞれの国の立場で意見を会議形式で言い合う。世界の国々が参加できる方法は何か、世界の国々が楽しめるオリンピックはどうあるべきかを、みんなで見つけさせたい。それを通して、他国の文化を尊重することを覚え、平和や国際協調の大切を感じ取ることを期待したい。

4. 指導計画

時数	学習内容	評価規準	他領域との関連
1～4	○がんばれ！日本！！ ・オリンピックに関心をもとう。種目や選手を知っているかな？ ○オリンピッククイズに挑戦だ！ ・オリンピッククイズに答えてみよう。意外とわかっていないぞ。 ○オリンピック博士になるぞ！ ・何を使って調べることができるか考えてみよう。 ・何を調べるかははっきりしよう。 ・どうやって発表するか考えよう。	・今までの知識をもとに、クイズに取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ・アテネオリンピックに対しての興味や期待をカードに書くことができる。 【関心・意欲・態度】 ・自分の調べたいことに対して、何を使い、どのように追究していくか、さらにどのようにまとめて発表するかなど見通す。 【思考・判断】	・体育 陸上運動（走り高跳びや幅跳び）でオリンピック記録を実感させる。 ・社会 「世界の人々とのつながりを広げよう」 日本が貿易やスポーツ・文化の交流を通して外国と深いつながりがあることを理解し、他国と協調していくための正しい国際理解が必要なことに気づく。
5～12	○追究しよう ・歴史について調べよう。 ・アテネ五輪の種目を調べよう。 ・釧路出身の五輪選手は？ ・日本のスポーツで五輪に選ばれているものは何だろう。 ・メダル獲得数を調べてみよう。 ・開催地を調べてみよう。	・自分の調べたい内容について資料を見つけることができる。 【技能・表現】 ・よりよい情報やわかりやすい情報を探したり選んだりできる。 【思考・判断】 ・資料を比較したり、補充したりしながら自分なりの方法でまとめることができる。 【技能・表現】	
13～14	○交流会をしよう ・自分の調べたことを発表しよう。 ・友達の発表を聞いて初めて知ったことや、おもしろかったことをまとめよう。	・聞き手を意識して、発表することができ、自分の追究と比較して聞くことができる。 【技能・表現】 ・新たな学びをカードに記述することができる。 【知識・理解】	・道徳 「国際理解を求めて」 「国際交流を求めて」
15 (本時)	○「釧路で冬季オリンピックを開こう」 ・地元のメダリストから話を聞こう。	・メダルを身近で見て、地元とオリンピックのつながりを感じ、自分ごととして調べようとする。 【関心・意欲・態度】	
16～20	・オリンピックのよさや課題は何だろう。調べてみよう。 ・いろいろな国の立場になって考えてみよう。	・様々な国の立場になって、オリンピックを考え、まとめることができる。 【思考・判断】 【知識・理解】	・学級活動 「学級オリンピックをしよう」
21～22	○「冬季オリンピック」を成功させるための会議をしよう。	・自分たちの主張をしながらも、違いを認めることができ、平和の大切さを考えることができる。 【表現・処理】	

5. 本時案

(1) 本時の目標

- ・北澤氏の銀メダルを通してオリンピックのあり方を考え、立場を超えて集うよさや努力の集大成、平和の祭典とういよさや意義をつかむことができる。
- ・釧路で冬季オリンピックを開催するとしたらどうするかを考え、成功するための配慮や工夫を考え、表現することができる。

(2) 本時の展開 45分 (21/22)

学習活動・内容	教師の支援(○)／評価(*)
○銀メダルを見る。誰がどこで取ったものか考える。 ○北澤氏の五輪のビデオを見て、その時の状況を知る。 ○北澤氏にメダルを取るために努力した話を聞く。 ○サラエボの写真を見る。 ○北澤氏にサラエボのことを聞く。 ○今回、やっとボスニアがオリンピックに復帰してきたことを知る。 ○オリンピックの今までの開催地と参加国数、日本の参加の表を見て、開催できなかった年や参加できなかった理由を考え、日本もボスニア同様戦争から復興したことを知る。 ○選手としての立場から、参加できないことのつらさを北澤氏に教えてもらう。 ○世界中の人々が立場の違いを超えて集い、ルールに従って力いっぱい競えるよさを北澤氏に語ってもらう。 ○釧路で冬季オリンピックを開くとしたら、どんなオリンピックにすべきか話し合う。 ・どんなオリンピックにしたいか。 ・成功させるためにはどんな配慮が必要なのか。 ・参加国はどのぐらいにするか。 ・実施種目はどんなものにするか。 ・配慮すべきことは何か。 ○今後、冬季オリンピックやパラリンピックを調べたり、アフリカ諸国、イスラム圏の国、次期開催都市釧路の立場になったりして調べる意欲をもつ。	○ハッとさせる。子どもの関心を高める。 ○北澤氏の存在を知り、地元にいるメダリストの努力と栄光を理解する。 ○自分の夢と比較して聞く。将来の夢の持ち方を考える。 ○開催地が戦場になるというショックを与えるとともに紛争の理由を教える。 ○復興して、オリンピックに参加できるようになったこと伝える。 ○表を提示し、世界の状況とオリンピックの関係をつかませる。 ○社会の学習とも関連させる。 ○北澤氏に選手の気持ちを伝えてもらう。 ○オリンピックのよさを記述させる。 * 国や立場を超えて集うよさや平和の祭典の意味を考えることができるか。 (ノート) ○第1回釧路オリンピック委員会を開催する。司会は授業者が務め、子どもたちの意見を聞く。 ○学習してきたことを引き出しながらも、オリンピックの規模の大きさや国々の違いに応じた対応の必要性など、課題を明確にする。 * オリンピックを成功させるための方法、配慮、工夫などを表現することができる。 (発表)